

項 目 名	車椅子使用時Y字帯にて抑制
表 題	車椅子に座るも座位保てずY字帯にて抑制、座位維持の検討
施 設 名	ふなき久和園（介護老人保健施設）

### 1 利用者の状況

年齢 94歳 性別 男 要介護度 5 痴呆性老人の日常生活自立度 b

【病名（既往症）及び病状】

うっ血性心不全・低体温・脳梗塞

### 2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

- 座位・立位共不可、移乗は全介助
- ADLについては、全介助（食事摂取は一部介助）
- 仙骨部が褥瘡になりやすいと思われるので注意

【痴呆の状況】

- 昼夜逆転、感情失禁及び大声など陽性症状
- 日常の意思決定を行うための認知能力・伝達能力が乏しい
- 意思疎通可能だが時々困難なとき有り

### 3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

原因として、病院から離床不可・ギヤッチアップL30度寝たきり状態にて入所、症状の改善見られリクライニング車椅子に移乗するも座位保てずY字帯にて座位維持するはこびとなった。

### 4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- 家族への現状説明、必要最小限での身体拘束同意書作成（Y字帯の使用時のみ）座位維持のため、対策を検討しY字帯をはずすことに取り組む

### 5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

入所時は、離床不可、寝たきり状態であったが、次第に食事に対する意欲が見え始める。また寝たきりによる痴呆進行防止のためレクリエーション等への参加を検討し、車椅子での離床を行う。リクライニング式車椅子にて離床するもL45度位でもずり落ちそうになりY字帯を使用する。身体拘束防止委員会にてY字帯の代替を検討。クッション等を利用して座位の安定を図るも10分程度でずれてくる。また、仙骨部に圧力がかかり褥瘡になるおそれがある。そのため、ダンボールを利用して座席部分に角度を付け座位の安定を図る。圧力が仙骨部に集中してかからないように工夫し座布団を置く。（別紙を参照）

これによりL75度位でも座位安定し1時間30分程度の離床も可能となる。仙骨部も発赤は時々出るものの褥瘡はできていない。離床時間の延長、レクリエーションへの参加等により痴呆の進行予防、状態の観察を行う。

### 6 改善の成果

レクリエーション等への参加も増え、発語も多くなってきた。日中に離床する時間が長くなり、昼間起きているため昼夜逆転が以前より減少した座位の安定により、食事摂取に関してはほとんど自力摂取できる状態にまで回復してきた

### 7 担当職員の感想、意見

今回のケースは、座位安定のためにY字帯を使用していたが、身近なものを工夫・使用することにより拘束外しを実現することができた。利用者の安全のため拘束も仕方なしとといったままでの考えを一掃して、いろいろと創意工夫して取り組むことが大切であると実感した。身体拘束防止委員会を設置し施設全体で取り組んでいく姿勢が結果として表れ

てきたと思う。今回の方法により、他に3名のY字帯抑制をはずすことができた。

